

令和4年度 学校評価 自己評価書(3学期)

1 学校の重点目標

- (1) 確かな学力の育成 (2) 豊かな心の育成 (3) たくましい心と体の育成 (4) 活力ある学校経営
(5) 学びの教育環境づくり (6) 信頼される学校・教師 (7) 家庭や地域との連携

2 評価結果と改善策【4段階評価:(最高4)】

重点目標	具体的な実践項目の評価	1学期	2学期	3学期	評価結果と改善策
1 確かな学力の育成	「分かる」「できる」「楽しい」授業の構築（ICT機器の積極的・効果的活用）	3.00	3.22	3.33	○ 昨年度見直した「基礎学力スタンダード」で児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にして学習指導を実施した。今後も、随時修正を加えていく。 ○ 「主体的・対話的で深い学びを実現できる授業づくり」を研究テーマに、算数科を中心に研究に取り組んできたことで、タブレットの効果的活用や「伝え合う力」や「論理的思考力」が児童に着実に付いてきた。 ○ 令和5年度は、本校で「小・中連携研修会」の授業をする予定である。今年度のブロック別研修会の課題を基に反省を行い、充実した授業提供・情報交換ができるよう今年度中に方向性を協議しておく。
	「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践（言語活動の充実）	3.00	3.22	3.22	
	「何ができるようになったのか」の把握と明確化（桜洲小基礎学力スタンダードの活用）	2.78	2.67	3.11	
	仲間づくりが根底にある学び合いによる学力向上の追究	3.00	3.11	3.33	
	職員研修の充実（校内・校外研修会への積極的参加と報告書での全体還元、UDの研究・実践、複式指導の研究）	2.90	3.00	3.20	
	幼・保・小・中一貫教育の実践（幼・保・小連携、小・中連携）	2.56	2.89	3.00	
2 豊かな心の育成	生徒指導の充実（いじめ等の未然防止と早期発見・早期対応、望ましい人間関係づくり、命の教育）※SST・SGE、「学校たのしいと」の活用）	3.00	3.00	3.44	○ いじめの実態調査(毎月)、「学校楽しい〜と」(3回)を定期的に実施することができた。また、人権集会や人権月間等での取組により、他者を思いやる心を児童に育成することができた。 ○ 読書ノートの活用や児童による読書イベントにより、読書意欲が高まり、年間読書冊数を達成する児童が増えた。親子読書の更なる充実を図り読書の室を高めていくことが課題である。 ○ レジリエンスカードを基に、各行事ごとに事前・事後の自身の変容を振り返らせることで、「折れないしなやかな心」の育成に努めることができた。 ○ 保護者にも「自分史ノート」(キャリアパスポート)へのコメントをもらうことで、児童のキャリア形成にたいへん効果があった。
	心に届く道徳教育の推進	3.00	3.11	3.22	
	読書指導の推進（読書量・質の向上、親子読書の啓発）	3.22	3.22	3.56	
	人権尊重の精神を基盤とした学級経営（Momの実践）	3.22	3.11	3.44	
	特別支援教育の充実（支援体制の整備と理解促進、就学指導の充実）	2.78	3.11	3.33	
	自尊感情の高揚につながる「折れないしなやかな心（レジリエンス）」の育成	2.89	3.11	3.11	
	自己実現を図る特別活動の推進（キャリア教育・環境教育・読書指導との関連）	2.67	3.11	3.22	
3 たくましい心と体の育成	学校体育の充実（一校一運動の継続実施、運動量を増加させる体育学習の推進）	3.22	3.33	3.44	○ 一校一運動である縄跳び運動やランニングなどに取り組み、体力の維持・向上に努めることができた。また、「チャレンジかごしま」に、全学年で取り組むことができた。 ○ むし歯治療率80%を達成することができなかった。引続き保護者と連携を図りながら、治療率の向上に努めていく。 ○ 手洗い・うがい、マスク着用、手指消毒、身体的距離の確保など、基本的な感染症対策に全校で取り組むことができた。また、保健部を中心に、消毒作業も適切に行うことができた。
	保健指導の充実（「あはははう運動」による生活リズムの確立、むし歯治療・メディアルール設定の啓発）	2.89	3.00	3.00	
	安全指導の充実（安全教育の計画的な実施、KYTの実施）	2.90	3.20	3.22	
	食に関する指導の充実（各教科等での指導、家庭での正しい食習慣の育成、食物アレルギーの把握と対応）	3.22	3.22	3.33	
	生命尊重を基盤とした防火・防災（減災）教育の充実（考えさせる避難訓練）	3.22	3.44	3.44	
	病気や感染症の予防に関する教育の充実と実践の日常化	3.20	3.30	3.22	

20	活力ある学校の創造	組織的・協働的な学校運営（協働する職員態勢の確立）	3.00	3.10	3.10	○ 地域素材を生かした教育活動の充実に課題がある。学校支援ボランティアや地域おこし協力隊等にも協力を依頼しながら、生活科や総合的な学習の時間での学習の充実を図る。 ○ 業務改善に係るフォローアップ調査では、業務改善が進んでいると回答した割合が92%だった。（十分感じている33%、概ね感じている:58%）今後も全職員で更なる業務改善に取り組んでいくとともに、保護者・地域にも積極的に理解を求めていく。
21		学校評価を生かした学校教育活動の改善（D-CAP）	2.80	3.00	3.10	
22		特色ある教育活動の推進（地域の素材・教育力を生かした教育活動の推進）	2.80	3.10	3.10	
23		職員の健康保持と職場環境の整備（働き方改革による業務改善の取組） ※1Action1Tryの取組充実	3.10	3.20	3.10	
24	学びの教育環境づくり	清掃指導の充実（無言作業、ゴミのない学校環境）	2.67	3.11	3.00	○ 本校のサツマソイルの取組が評価され、水道局の取材があった。リサイクル肥料の活用など今後も「花と緑いっぱい为学校づくり」を中心に、積極的にエコ活動に取り組みながら、SDGs実現に向けた取組を推進していく。 ○ 毎月の安全点検を確実にを行い、修繕箇所等は、安全性、機能性等、優先順位を協議しながら、処理することができた。
25		心を育てる学習環境の整備（学校図書館の充実、花と緑いっぱいの学校づくり）	3.22	3.56	3.50	
26		施設・設備等の計画的な整備	3.00	3.20	3.30	
27		どの児童にも優しい教育環境づくり	3.00	3.00	3.11	
28		青少年赤十字の理念の理解と活動の推進（ボランティア活動の充実）	3.00	3.11	3.33	
29	信頼される学校・教師	専門性を磨く自己研鑽（教科指導力・専門的力量的の向上、総合的人間力の育成、学級経営等の充実）	3.00	3.10	3.30	○ 職員それぞれの専門性や得意分野を發揮しながら、教育活動に取り組むことができた。 ○ オンラインによる研修機会が増えてきたので、自身の指導力向上のため、積極的に・計画的に受講していく。
30		自覚と矜持の心で臨む服務規律の厳正確保（参加型研修の充実、信頼される学校づくり推進委員会の活用）	3.00	3.10	3.30	
31		業務改善に向けた協働性の發揮（意識化・簡素化・効率化による取組、定時退校日の設定）	3.00	3.30	3.00	
32	家庭や地域、関係機関との連携	学校情報の積極的発信（学校便り、HP、ブログ、各種会議等での発信）と地域行事への積極的参加	2.89	3.11	3.00	○ 「桜洲小学校からは絶対に不祥事は起こしません」をスローガンに掲げ、職員一丸となって不祥事根絶に取り組むことができた。特に、毎月のセルフチェックは、職員が定期的に自身の言動を深く省みるよい機会となった。 ○ 来年度から、学校評議員会が学校運営協議会となる。他小、中と共に課題を共有し、取り組んでいく。 ○ 保護者・地域とのつながりを途絶えさせないために、学級通信や学校便り、HPの更新等の充実に努めることができた。
33		学校支援ボランティア事業活動の積極的推進	2.60	2.70	3.11	
34		「信頼される学校づくり推進委員会（不祥事根絶委員会）との意見交流・協議	2.78	2.89	3.11	
35		校区コミュニティ協議会との連携（コミュニティスクール・学校統合見本構想の確立）	2.67	2.67	3.00	
36		P T A活動の活性化（組織改正と実践、学級P T Aの充実、「おうしゅう運動」の取組）	3.00	3.11	3.11	
37		P T A・学校行事への協力と参加	3.22	3.22	3.22	
38		家庭の教育力の向上（家庭教育の充実、基本的な生活習慣の確立）	3.00	2.89	3.00	
39		学級通信や各種便り等での情報発信と教育相談による情報交換・指導の充実	3.20	3.20	3.44	
40		公的機関や各種団体との情報交換等による連携の推進	2.89	2.89	3.00	
			2.96	3.10	3.21	

3 次年度に向けての取組

- 令和5年度は、上町地区特別支援学級研究協議会の担当校である。課題解決に向け関係校とも連携を図りながら、より実効性のある共通実践事項を設け、計画的に取り組んでいく。
- タブレットを積極的に活用し、教児共にICTリテラシーの向上を図りながら、よりよい活用法について研究していく。